

平成２７年度第３回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

１ 日 時： 平成２７年１０月２８日（水）午後１時３０分～午後３時

２ 場 所： 千葉競輪場４階多目的室

３ 出席者：（委員）

篠崎委員長、市原委員、高岡委員、藤本委員、山本委員

（事務局）

今井経済部長、大堀所長、池原経済企画課長補佐

山本主任主事

（日本写真判定株式会社 以下ＪＰＦ）

渡辺代表取締役、吉川部長、小宮次長、荻原事業長、高橋事業長代理

邊田事業長代理、石塚事業長代理、青野

４ 議 題

（１）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（４月～９月）

５ 会議経過

（篠崎委員長）

会議に先立ち、事務局からの報告を求める。

（事務局 大堀所長）

- ・次期の包括委託事業者について報告する。平成２８年度・平成２９年度の包括委託事業者の選定について、８月２８日の審査委員会で審査の結果、現在の包括委託事業者であるＪＰＦが受託候補者と決まった。１０月２日にＪＰＦへ候補事業者と決定した旨を連絡して、平成２８年３月上旬に基本契約を締結する予定。

（篠崎委員長）

議題１の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、ＪＰＦに説明を求める。

（包括業務委託の進捗状況モニタリングについて）

（ＪＰＦが配布資料に沿って説明）

（千葉競輪開設６６周年記念滝澤正光杯の開催について）

- ・前年度比では、初日の本場売上のみ下がった。２日目以降の本場開催の車券売上は、全て昨年を上回った。

- ・今回は、車券売上の見込める協力場外の大宮、小田原競輪場が発売しない厳しい状況の中で目標設定を60億円にした。全国的に記念の開催は平均で5%程度下がっている。この状況の中で62億2千万円の売上。前年度比101.6%だった。本場開催、電話投票、インターネット投票の売上が全て上がった。
- ・千葉記念の売上額と全国の記念の売上額との比較だと、昨年度は全国で13位だったランキングが、今年は現時点で4位となった。今回は、事前のメディア露出も増やし、森田県知事が出演する熱血！BO-SO TVなどの番組に出演して、記念を大々的に告知した。
- ・千葉を代表する、プロスポーツのロッテ、ジェフ千葉、ジェッツなどのチアリーダーによる応援合戦を行なった。
- ・選手会の協力により、マグロの解体ショーを実施した。
- ・地元密着の千葉に関係するアーティスト、太鼓、よさこい、ベリーダンスなどのグループが会場を盛り上げた。
- ・千葉競輪場が地域の皆様にとって認知されるとともに、普段の市営競輪開催にも足を運んでいただくように繋げていきたい。
- ・記念の最終レース、決勝戦で2着になった伊勢崎選手のコメントを紹介する。
「お疲れ様でした。そして僕たちが全力を出せる環境をつくってくださって有難うございました。縁の下の力持ちはスタッフさんたちです。大粒の汗を流しながらの66周年の看板設置など、沢山の環境づくりをしていただいたことを忘れません。それを抱いて一緒に走らせていただきました。本当にありがとうございました。これからも手を握りあって頑張っていきましょう！」
- ・選手会、千葉市、JPFが三位一体となって競輪事業を進めていると感じている。

(包括業務委託の進捗状況について)

- ・記念の準備から、CKBカフェの店舗運営、花壇のリニューアルなど、引き続きサービススタッフの声を聞きながら、場内美化に努めていく。
- ・中央消防署から指摘を受けていた消防設備を修繕した。サイクル会館では、浴室のろ過装置や空調の設備修繕を行った。
- ・選手会の提案でポリカーボネートに穴をあけ、選手を応援する声が届きやすくなるようにした。
- ・9月にはバスツアーの団体客を受け入れ、11月にも団体客の予約が入った。今後も新規顧客を誘致するスペースとしてウッドデッキを活用する。

(イベントについて)

- ・映画「弱虫ペダル」とのコラボレーションを行なった。映画に使用する音源として、千葉競輪場で自転車の走行音を収録した。

- ・企業協賛レースを開催した。DMMの協賛で、WEBでも告知された。
- ・高齢者向けの交通安全教室を実施した。千葉中央警察署の警察官から、「いろんな場所で交通安全教室を行うが、こんなに恵まれた場所はない。競輪選手とともに競輪場で交通安全教室を行なうことで人々の記憶に残りやすい。定期的に行なわせてほしい。」とのこと。
- ・ワールドビジネスサテライトの収録放映があった。放映後、サイクルクラブの問い合わせが増えた。
- ・競輪場近くの「すき家」とのコラボレーションを行っている。千葉競輪で発売している車券をお会計時に提示すると30円引きになるキャンペーンを実施している。今後とも無期限でキャンペーンを延長することになった。

(売上・事業計画の進捗について)

(JPF)

- ・4月から10月までの目標設定について、概ね目標を達成した。
- ・4月～6月の車券売上が好調で目標を超えたが、7月、8月は猛暑だったため、売上げが下がった。
- ・4月から9月までの本場開催、場外開催について、特に、FI開催の車券売上が上がっている。
- ・場外開催について、昨年度に比べて、GI、GII、GIIIの前年比が下がっているが、FI及びナイター開催については、昨年度比110%だった。
- ・一宮競輪場の閉鎖、記念開催の減少から、FI開催を増加した。またナイター競輪に関しては、週末の日程のみを発売して売上を確保している。

(ネクストステップについて)

- ・冷温水発生器、冷温水・冷却水ポンプの交換、昇降機、エレベータの交換等を検討している。
- ・ウッドデッキの有効活用として、土、日曜日が重なる本場開催でカフェテリアとして新規お客様の来場促進を図り、第3コーナースタンド側にはバーベキュースペース及びプランター菜園の設置を考えている。地元の自治会やママさんグループで会員を募り、プランターで育てた作物をバーベキュースペースで調理し、食べながらのレース観戦も考えている。ヨーロッパの自転車競技場のように、バンク内飲食観戦スペースを提供していきたい。
- ・正門正面のからくり時計の撤去を考えている。設置当初は正常に動作し、ファミリー層に人気だったが、現在は故障していて、正面から入る動線の邪魔になっている。
- ・千葉サイクルクラブで、バンク走行を楽しんだ後にナイター競輪開催を楽しむ企画を実施した。競輪ファンの拡大、車券売上につなげたい。

- ・使用していないメインスタンド3階の有効活用について、地元の自治会の方と検討している。
- ・千葉競輪場における、ナイター競輪、ミッドナイト競輪開催を検討している。ロンドンオリンピックの時に採用された、灯りの数を減らした集光型照明等の技術で安価に設置できないかを現在検討中。
- ・国際トラックレースや、全プロ等の企画レース、ガールズケイリンなどのレース開催を検討していきたい。
- ・GⅢ開催の記念売上が良かった事もあり、千葉市と一緒に企画レースの誘致活動を行い、大きなレースを千葉競輪場で開催したい。
- ・電話投票対策が非常に重要。
- ・J P F が包括委託を受けてから、この2年間、千葉市の収支黒字を実現した。今回のモニタリングでも提案した経営改善策を含め、常に売上向上策を模索し、民間活力を生かすことで事業収支の黒字化を進める。新しい試みをどんどん試したい。

(篠崎委員長)

議題 (1) 包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、事務局にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 山本主任主事)

- ・受託者から提出のあった平成27年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、4月から9月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(篠崎委員長)

千葉競輪開設記念の車券総売上が上がっていることについては、どのように分析しているのか。

(J P F)

- ・色々なメディアに事前に告知を行ったこと、千葉サイクルクラブや自分たちが企画した企画がメディアに取り上げられていること、今までの地道な努力が地道な数字として現れていることが要因と考えている。イベントで地域の方を呼ぶことによって、地元の方々が地元の友達を連れてきやすい状況を作っており、普段よりも盛り上がる内容になったように感じている。

(高岡委員)

私は19日の月曜日にお邪魔した。色々なイベントを実施していたが、私は気づかずにそのまま上に上がって来てしまった。イベント開催の場所と時間帯をどのように考えているのか。

(J P F)

19日と20日については、11時くらいからイベントをスタートした。

(高岡委員)

お客さんもすぐ気付くような形でイベントを開催したのか。

(J P F)

- ・場内に告知をしている。平日に来られるターゲットとして、今回は、奥様方を対象に考えた。お母さん向けのコンテンツを第3、第4コーナーで行った。
- ・J P Fが包括受託している競輪場が4か所あるが、千葉競輪開設記念のイベントは基本的に土日に集中している。土日しか来られない方をメインに、新しいお客を増やしたいと考えている。今回は、試験的にお母様たち向けのイベントを平日に開催した。平日としては、ある程度の集客があった。

(市原委員)

千葉競輪開設記念で非常にいい結果が出たと思うが、実際の経費はどのくらい使ったのか。

(J P F)

- ・去年の経費に比べて10%減。

(市原委員)

イベントをたくさんやっているが、無料でやっているのか。

(J P F)

- ・競輪教室、サイストチャンピオンカップ（バーチャル自転車ゲームでの競争）、抽選会については、ほぼ無料と考えている。

(藤本委員)

団体客が来たという話をきいたが、記念競輪にも団体客が来たのか。

(J P F)

- ・記念競輪の2日目に愛の競輪という、障がいをお持ちの方がバンク内を走るレースを開催している。知的障がいを持っている方、ご家族、福祉の関係者に声をかけており、毎年来場される。

(藤本委員)

記念競輪以外で来場した団体は、どんな団体か。

(J P F)

- ・地域の方が所属するサークルなどの団体。多目的室かロイヤルルームで対応する。お客様から、本場開催時にたくさんのお客さんを連れてきたいとの要望を受けて、対応することもある。

(藤本委員)

競輪場のバンクや施設を観光で利用するのはどうか。

(J P F)

- ・中国の方の日本での爆買いが話題となっており、中国人観光客の受け入れ先として検討している。

(高岡委員)

ホスピタリティツーリズムについては、どういう目的なのか。

(J P F)

- ・千葉のシクロクロスという団体があり、元観光物産協会の福田先生が、千葉で再就職を行う職業支援活動を行っている。観光の関連企業に寄与できる人材を育てようという動きがあり、千葉競輪場でも授業を行うことになった。今後、千葉競輪場で、定期的に千葉競輪場の問題点や、競輪の活性化について話し合う予定。また、中村浩士選手が競輪選手を目指した理由や練習内容などの話しの後、競輪場をどうやったら盛り上げられるのか、参加者に投げかける予定。

(高岡委員)

私も大学で教えている。関心を持つ学生が多いと思う。私もスポーツビジネスの分野なので、今後、大学生に受講生というかたちで受け入れてもらえるか。

(J P F)

- ・歓迎する。

(山本委員)

今年いい数字が出たので、来年、再来年も売上を上げていくために、ナイター競輪を進めるべきだと考えるが、実現できそうか。

(J P F)

- ・ナイター設備について照明設備会社から見積もりを取ったところ、4億円を超えた。青森競輪場では6,000万円で作ったという事例があるので、簡易的な照明の事例を調べて、安く実現できる方向性を探している。青森競輪場の場合は、バックスタン

ド側に車を止められるスペースがあり、施設のメリットがある。現在検討中

(篠崎委員長)

本場開催の対前年比が上がっている。特にFⅠ、FⅡの比率が上がっていることについて、どう分析しているのか。

(J P F)

- ・隔年に1回開催のジャパンカップという大きなFⅠを今年の4月に開催した。FⅡに関しては、日程の関係と、TVの放映やスタジオの作りなどの部分があると考え。今年はFⅡの正月開催があり、車券売上を期待している。
- ・電話投票でも、2車複とか、普段売上が上がらないようなところに、キャッシュバックキャンペーンを行った。

(高岡委員)

新規のお客様を呼び込むという話だが、初めてだと車券の買い方もわからないと思う。そういったお客様に向けた簡単な教室の開催などを行っているのか。

(J P F)

- ・土日には、コンシェルジュとしてJ P Fのスタッフが初心者の方に声をかけ、買い方を説明して、マークカードの書き方を教えている。また、「競輪大學」という施設で、元選手が学長として講師をしている。

(高岡委員)

初めての方でも車券が買えるようになっているのか。

(J P F)

- ・簡単にするために、1～9番を書いた紙に1着を当てるゲームから始めている。団体客をお連れしたときに、1着になるかを当ててもらって、当たった方にボールペンなど進呈している。

(市原委員)

競輪場の新規のお客様をリピーターにつなげていくための大事なポイントはどのように考えているのか。

(J P F)

- ・継続した告知が大事だと考えている。次のイベントなどの告知を用意するようにしている。Facebook やHPによる告知も大事にしている。準備風景も掲載するように工夫している。

(市原委員)

Facebook にどれくらい「いいね」の数があるのか。

(J P F)

- ・千葉競輪場で200弱、千葉サイクルクラブだと700弱。

(市原委員)

SNSの活用も伸びているということか。

(J P F)

- ・回を追う毎に増えている。できるだけ活用するよう心掛けている。

(篠崎委員長)

議題（１）について了承。